

課題対応取組み報告書

名称	旭区西部地域包括支援センター						
提出日	令和	6	年	6	月	26	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☒ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
活動テーマ	冷めた頭と温かい心、そしてスマートな支援へ！				
地域ケア会議から 見えてきた課題	①本人（単身）に認知症又は精神疾患があり、金銭管理の不能から生活困窮へと陥り、多問題化し権利擁護を必要とするケースが発生している。 ②同居する家族に認知症や精神疾患、障がいがあり、介護負担を強く感じられている。				
対象	本人及びその家族、地域住民、地域支援者、専門職（医療・介護など）				
地域特性	圏域の高齢化率は中宮は29.4%、生江は35.7%、赤川は28.8%で、旭区の高齢化率（29.4%）を2地区が上回っている。 地域の特色としては、平坦な道路が続き多くの高齢者が自転車を利用されている。だが、怪我や筋骨系の疾患次第では移動手段を変更せざるを得ない状況となつてしまい、活動範囲に大きく影響を及ぼしてしまう。 旭区のシンボルの一つとなっている城北公園では、ラジオ体操や太極拳など地域住民が主体となり介護予防に取り組んでいる。				
活動目標	①多機関とのネットワークの活用と培った経験を活かし、問題の早期介入、早期解決に取り組んでいく。 ②地域住民や地域支援者へ権利擁護の情報発信を続け、介護支援専門員へはスキルアップにつながる研修会を開催する。 ③居宅介護支援事業者連絡会の場において、高齢、障がい世帯への支援に対しての研修会を開催する。 ④アウトリーチ活動を継続し、積極的に地域へ出向いていく。 ⑤防災及び特殊詐欺被害防止に取り組む。				
活動内容 (具体的取組み)	①地域包括支援センター（以下「包括」という）単体で解決が難しいケースに対しては、地域ケア会議や「つながる場」（総合的な相談支援体制の充実事業）を活用し、多職種協働にて対応した。また、会議終了後も情報共有などで連携し、対象者への支援を行った。 ②地域行事に参加した地域住民や民生委員協議会に対し、高齢者虐待防止のリーフレットを用いて周知活動を継続した。介護支援専門員向けには、居宅介護支援事業者連絡会において高齢者虐待防止法の理解を深める研修会を開催した。 ③居宅介護支援事業者連絡会にて複合的な問題を抱えた世帯への支援方法を、相談支援専門員と共に学び、今後のケアマネジメントの一助となるように取り組んだ。 ④新規要支援認定者への訪問を続け、地域資源の情報提供や介護サービス利用の支援を行い、自立支援、重度化防止へ繋がるように取り組んだ。 ⑤地域行事（百歳体操・ふれあい喫茶など）にて、防火・防災や特殊詐欺被害防止についてチラシを用いて注意喚起した。また、訪問勧誘お断りステッカーの配布も積極的に行った。				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①地域ケア会議（個別ケース21件）の実績としては、参加者延200名、23機関との連携により課題解決へと取り組んだ。 ②介護支援専門員からの虐待に関する相談や通報、虐待対応後の連携も含め、相談件数が大幅に増加した（相談件数は前年度よりも54件増え、1.76倍）。 ③一昨年から実施している障がい福祉サービスの学習会の積み重ねもあり、知的障がいのケースや8050問題など、家族や家庭に関する相談件数も増加した。 ④令和5年度は計46件へアウトリーチを行った。何か問題が発生した時に円滑に介護サービスが受けられるようにと、介護認定を保険的に捉えている人が多かった。 ⑤令和5年度中は被害を訴える相談は発生しなかった。				
今後の課題	・地域ケア会議や「つながる場」の開催から得た各機関との関係を維持し、包括のみで解決が困難な世帯に対し、早期に課題解決が図れるよう連携が必要である。 ・総合相談に対して、各スタッフが単独でも対応が出来るよう、専門知識取得に向けた研修へ参加し、業務の効率化に努める。 ・引き続き地域へ出向き、地域住民の声に耳を傾ける必要がある。				

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月24日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	・地域ケア会議において多くの地域住民や関係機関と連携して、課題解決に向けてPDCAサイクルを回しながら取り組んでおられ、「地域性」「継続性」「浸透性・拡張性」「専門性」に該当すると考える。 ・介護支援専門員のスキルアップにつながるような研修会を継続して実施している。継続的な取り組みにより理解が広がり、ケアマネジャーからの虐待に関する相談や通報、虐待対応後の連携も含め、相談件数が前年度の1.76倍となった。これらの活動は「継続性」「浸透性・拡張性」「専門性」に該当する。 ・継続して新規要支援認定者への訪問を続け、自立支援、重度化防止へ繋がるよう地域資源の情報提供や介護サービス利用の支援を行ったことは「継続性」があると評価できる。 ・地域行事の場を活用して、防火・防災や特殊詐欺被害防止についてチラシや訪問勧誘お断りステッカーの配布を積極的に行われた。また、地域の関係者と連携して工夫を重ねながら啓発に取り組んでおり、「地域性」や「独自性」のある活動をされている。今後も地域に根差した活動を発展させていきたい。